

# 顔にこぶ誇りの人生

## 絵本携え、子どもにも語る

病気のため顔に大きなこぶがある元熊本大医学部教授の藤井輝明さん(54)(国立市在住)が、半生をつづった絵本「てるちゃんのかお」を携え、各地の学校や塾を巡っている。「異質なものを排除しない世の中に」という願いを込め、差別やいじめを受けた体験とともに、自身が両親の励ましによって乗り越えてきたことを子どもたちに伝えている。

(大津和夫)

### 国立の藤井さん



自らの半生を描いた絵本を使って子どもたちに語りかける藤井さん(国立市の国語教室「悠学舎」で)

「顔のことでいじめられるなんて、てるちゃんがかわいそう」「うんうん。顔で差別しちゃいけないよね」。先月12日、国立市の国語教室「悠学舎」を訪れた藤井さん。絵本を読み聞かせた後、子どもたちが感想を言うとうれしそうに相づちを打った。

藤井さんは7歳の時、血管にこぶができる海綿状血管腫という病気を発症。効果的な治療法がなく、小学校に入ると「化け物がきた」「近くに来ると顔がふくら

むぞ」などといじめられた。大学卒業を控えた就職活動では約50社回ったが「君のような化け物は雇えない」と言われたという。

その後、知り合った医師の薦めで医療関係団体に就職。関係者の紹介などで名古屋大学大学院博士課程を修了するなどし、大学教授に。現在は中央大学保健体育研究所客員研究員を務める。

絵本では、いじめられ方にひきこもりがちになった「てるちゃん」のつらい体験とともに、自信をつけさせようと学校の行き帰りに声をかけてもらうよう近所の人に頼んだり、パイオリンや水泳の習い事を一緒に取り組んだりする両親の

様子が描かれている。「あなたの顔は宝」が口癖だった両親の揺るぎない愛情のおかげで「自己肯定感を持つことができた」という藤井さん。小中学校や塾を訪れ子どもたちに接する際、顔のこぶを直接触ってもらい、こう話しかけている。「この顔は僕のトレードマークだよ」

藤井さんは「ありのままの自分に誇りを持って生きること、自分も他人も大事な1人であることが伝われば。せひ学校や家庭で読んでもらいたい」と話している。

絵本は税別1300円。問い合わせは金の星社(☎03・3861・1861)へ。藤井さんのホームページ(<http://www.hokenkagaku.com/index.html>)。